平成29年度　全国学力・学習状況調査における

北九州市立　　思永　　中学校の結果分析と今後の取組について

文部科学省による「全国学力・学習状況調査」について、平成29年4月18日（火）に、3年生を対象として、「教科（国語，数学）に関する調査」と「生徒質問紙調査」を実施いたしました。

この度、本年度の調査結果を分析し、今後の取組についてまとめましたので、お知らせいたします。

学校の現状を知っていただくとともに、ご家庭での取組の参考にしていただきたいと思います。

なお、本調査により測定できるのは、学力の特定の一部分であり、学校における教育活動の一側面に過ぎません。本校では、他の教科等も含め、総合的に学力向上を目指しています。

1．調査の目的

⑴ 義務教育の機会均等とその水準の維持向上の観点から、全国的な児童生徒の学力や学習状況を把握・分析し、教育施策の成果と課題を検証し、その改善を図る。

⑵ 学校における児童生徒への教育指導の充実や学習状況の改善等に役立てる。

⑶ そのような取組を通じて、教育に関する継続的な検証改善サイクルを確立する。

2．調査内容

⑴ 教科に関する調査（国語，数学）

主として「知識」に関する問題（A）	主として「活用」に関する問題（B）
・身につけておかなければ後の学年等の学習内容に影響を及ぼす内容	・知識・技能等を実生活の様々な場面に活用する力
・実生活において不可欠であり、常に活用できるようになっていることが望ましい知識・技能	・様々な課題解決のための構想を立て実践し、評価・改善する力

⑵ 生徒質問紙調査

生徒質問紙調査
○学習意欲、学習方法、学習環境、生活の諸側面等に関する調査

3. 教科に関する調査結果の概要

⑴ 全国・本市の学力調査（国語A・B，数学A・B）の結果

本年度の結果	国語A		国語B		数学A		数学B	
	平均正答数	平均正答率	平均正答数	平均正答率	平均正答数	平均正答率	平均正答数	平均正答率
本市	24.5	77	6.3	70	22.2	62	6.8	45
全国	24.8	77	6.5	72	23.3	65	7.2	48

⑵ 本校の学力調査結果の分析

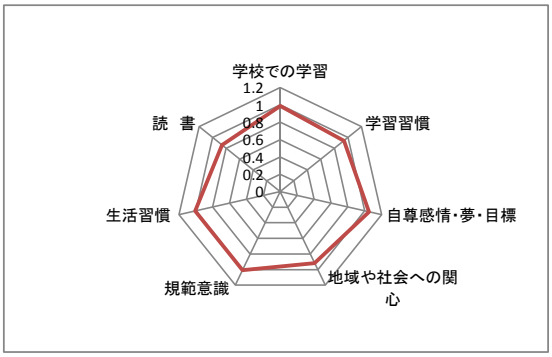
国語A	全体的な傾向や特徴など	・全国平均正答率を3%上回っていた。無解答率も全体的に低い。 ・言語知識を問う問題では、全体的に正答率が高く、特に、漢字の読みにおいては100%の正答率である。	全国平均正答率との比較 上回っている
	よくできた問題	書く能力において、語句の使い方を工夫して書いたり、文章の構成を工夫して分かりやすく書く問題では正答率が高い。	
	努力が必要な問題	読む能力において、文章を読んで要旨を捉え、見出しを選択する問題については正答率が約3%低い。	

国語B	全体的な傾向や特徴など	・全国平均正答率を約1%上回っているが、記述式の問題では正答率は、全国より低い。 ・目的に応じて必要な情報を読み取る問題では、無解答率はやや高い。	全国平均正答率との比較 上回っている
	よくできた問題	登場人物の言動の意味を考え、内容を理解する問題では正答率は全国よりやや高く、無解答率も0%である。	
	努力が必要な問題	比喩を用いた表現に着目し、感じたことや考えを書く問題では、全国よりも無解答率は低いが、正答率は6%下回っている。	

数学A	全体的な傾向や特徴など	・全国平均正答率を約3%下回っているが、無解答率は全体的に低い。 ・図形に関する問題と関数に関する問題の正答率は低い。	全国平均正答率との比較 下回っている
	よくできた問題	計算問題では全体的に正答率は高い。	
	努力が必要な問題	図形では、弧の長さを求めたり、体積を求める問題は正答率が低い。また、関数においては、表やグラフから読み取る問題において正答率が低い。	

数学B	全体的な傾向や特徴など	・全体的に無解答率は低いが、図形に関する問題、関数に関する問題において、記述式で答える問題での正答率がやや低い。	全国平均正答率との比較 下回っている
	よくできた問題	数量に関する問題で、資料から必要な情報を読み取る問題では、正答率が高い。	
	努力が必要な問題	図形に関する問題で、筋道を立てて考え、証明する問題では、正答率が低い。	

4. 学校での学習活動、家庭での生活習慣等に関する質問紙調査結果の概要



質問紙調査の結果分析

・自尊感情等において、肯定的な解答をした生徒の割合は、昨年度よりも高く、また、全国平均よりも高い。
・1日60分以上勉強している生徒の割合は、全国に比べると低いが、昨年度よりも高くなっている。夢実現・目標達成に関する項目の結果とつながるものがあると考える。
・読書に関して肯定的な解答をした生徒の割合は、昨年度と同じくらいだが、全国に比べると低い。国語Aの問題で文章を読んで要旨を捉える問題で正答率が低いということにつながっていると考えられるので、文章を読むことに慣れさせる必要性があると思われる。

5. 調査結果から明らかになった、課題解決のための重点的な取組

① 教科に関する取組（全校で・学年で・学級で）

・基礎学力の定着のための、漢字・計算・英単語のコンクールを各学年で実施する。
・朝自習の時間を利用して、読書の取組、英語のリスニングを行う。

② 家庭生活習慣等に関する取組

・学習した内容をもとに、課題を与え、家庭学習の習慣を身に付けさせることを継続する。
・PTA理事会や保護者会等を利用して、家庭学習の重要性としかたについて話をすることを継続する。
・小中連携担当と特別支援コーディネーターが中心となり、小学校6年生の授業を参観し、学習に関しての情報交換を行う。